

打継処理剤の散布時期およびその現場管理手法に関する一検討

酒井 貴洋¹⁾, 清宮 理²⁾, 水谷 征治³⁾, 田中 亮一⁴⁾

A Study of the Field Management Techniques and Application Time of Materials for Treating Construction Joint Surface

Takahiro Sakai¹⁾, Osamu Kiyomiya²⁾, Seiji Mizutani³⁾ and Ryoichi Tanaka⁴⁾

■ 要 旨 ■

散布するのみで通常の打継処理(凝結遅延剤+高圧水)と同等の性能を確保できるとされる打継処理剤について、各種実験からその適切な散布時期を把握するとともに、施工現場で容易に適用可能と考えられる散布時期の管理手法について検討を行った。その結果、ブリーディング最大後拭き取り時点またはブリーディング水が引き込まれる時点を散布時期として厳守することで、通常の打継処理とほぼ同等の引張抵抗性や安定した処理品質を確保できる可能性を示した。またコールドジョイントの簡易判定法として用いられる N 式貫入試験を現場管理手法として適用することで、最適な散布時期を定量的に把握できる可能性を示した。

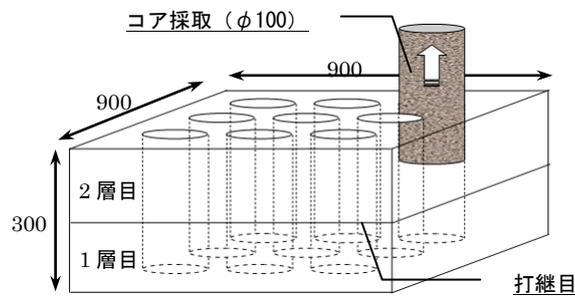


図-1 試験体の形状寸法

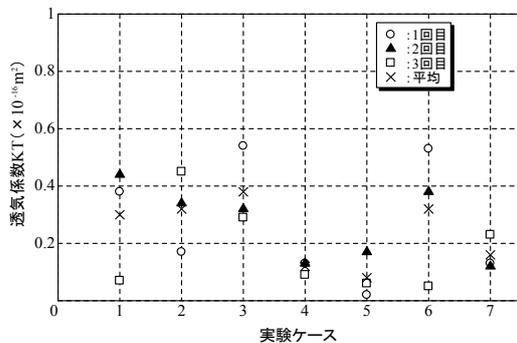


図-2 透気係数の比較

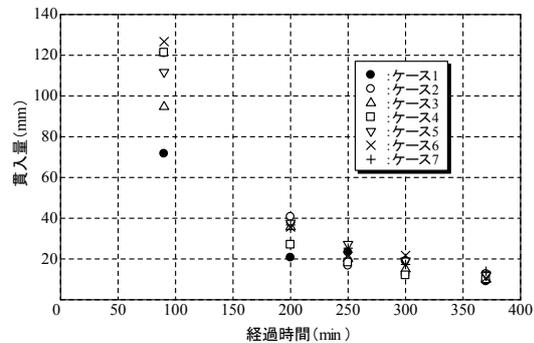


図-3 N式貫入試験 貫入量の比較

1) 技術研究所 土木技術開発部
 2) 早稲田大学 創造理工学部社会環境工学科教授
 3) 東洋建設㈱
 4) 東亜建設工業㈱

*コンクリート工学年次論文集, Vol.34, No.2 (2012),
 日本コンクリート工学協会, pp.1342-1347 掲載